

第 4 回 多摩市総合計画審議会会議録（要点録）

■開催日時 令和 4 年 9 月 26 日（月） 午後 7 時～午後 9 時

■開催場所 多摩市役所 本庁舎 3 階 301・302 会議室

■出席委員 15 名（50 音順）

朝日 ちさと会長、宮本 太郎副会長、有賀 敏典委員、岩佐 玲子委員、小笠原 廣樹委員、
尾中 信夫委員、勝田 淳二委員、紀 初子委員、澤登 早苗委員、高木 康裕委員、
春田 祐子委員、福井 博文委員、細野 佳苗委員、松野 茂樹委員、鷺尾 和彦委員

■欠席委員 0 名

■事務局

阿部市長、鈴木企画政策部長、小形企画課長、秋葉企画調整担当主査、
池田主任、大和主事、満井主事

■傍聴者 1 名

■議事日程

開会

- 1 前回要点録の確認
- 2 「（仮称）第六次多摩市総合計画」策定の進め方について
- 3 「（仮称）第六次多摩市総合計画」における基本構想の検討について
- 4 その他

閉会

1 開会

出席委員は15名であり、過半数の出席があるため審議会は成立した。

【1 前回要点録の確認】

前回要点録（資料18）の確認を行い、修正等無く了承された。

【2 「（仮称）第六次多摩市総合計画」策定の進め方について】

事務局より資料19について説明。

【3 「（仮称）第六次多摩市総合計画」における基本構想の検討について】

事務局より資料16,17について説明。

委員 総合計画策定の背景について、今日は将来都市像を考えるということになっているが、多摩市の背景がどうなっているのかが気になる。多摩市の背景を理解したうえで将来都市像を考えることも大事ではないか。

日程の制約などがあるなら、背景を検討するワーキンググループを開催するとか、今後行う基本計画の議論などの中で出てきた多摩市の課題点を踏まえて、もう一度将来都市像の検討に戻るとかの進め方があると思う。

事務局 基本構想の考え方としては、現状や課題から導くやり方と、あるべき姿やありたい姿から導くやり方がある。今回スケジュールを巻き直した中で、現状や課題については、基本計画に近い部分で分野ごとに示したいと考えている。ただし、今年度末の段階では基本構想は固まっていないので、基本計画の検討時に出てきた課題を踏まえて、再度基本構想に戻って検討したい。

委員 具体的なイメージが湧くので来年2月とは言わず、少しずつでも課題の共有をしていただきたい。

会長 課題を踏まえて議論することは重要である。基本構想のあるべき姿を考えるにあたっては、それぞれの委員が持っている現状や課題があると思うので、今回の議論を通して、こういうところが課題であるということを委員の間で共有していただきたい。

事務局より資料20について説明。

委員 資料16がきれいにまとまっているが、どのあたりを今回の議論の焦点とするかがわかりにくい。このまま議論しても、前々回の議論と同じになるのではないか。

会長 今回の議論では、前々回網羅的に出てきた意見を基に文章化していただくのが大事になる。キャッチフレーズを考えていただき、その理由や意図などを共有していただきたい。

委員 前々回に委員の中で割と共通した認識を共有していたように思う。この50年を振り返ったうえで将来をどう考えるか、次の50年こういう風に変わっていかうといったことを、生の言葉で話す方が良いと思う。キャッチフレーズの決定は焦らずに議論の上で行った方が建設的ではないか。

事務局 前々回では、出していただいた意見に対して議論していただく時間が設けられなかった。

今回はその議論をしていただくが、全員で意見を出し合うと時間が足りなくなるので、3グループに分けて議論し、それぞれで意見を共有していただきたい。

副会長 総合計画は誰にでもわかり易く伝わらなければならないものだと思う。課題意識や議論が深化するほど、汎用性がなくなってしまい、一般の人に伝わらなくなってしまう可能性がある。それを防ぐために事務局が配慮していただいたかと思うが、委員サイドから考えると同じ議論の繰り返しに感じてしまい、議論の積み上げ方が難しい。議論の進め方について、前々回の議論とどう違うのか示してほしい。

会長 前々回の議論の振り返りから発言の意図等を話していただければよいかと思う。

委員 最終的にどういうところに議論を落ち着けたいのか分からない。汎用性を出すために、尖った意見を丸めていくという感じなのか。前々回のリベンジだと、もう一度しっかり意見を出すことになるので、丸めていく方向にならない。どちらの方向で進めるのか示してほしい。

委員 資料16は何も前提のない状態に出した意見を集めたものである。今回の議論は、多摩市と「SDGsをどう結びつけるか」、「基本構想をどう織り込んでいくか」であって、そうすると資料16では、社会面はたくさん意見があるが、経済面や環境面はあまり触られていないので、そこにアプローチをして、より網羅的にしていくものだと受け取った。

事務局 丸めた意見よりかはエッジのきいた意見の方が良い。結果的にパブリックコメント等で丸まってしまう可能性があるが、審議会の中では尖ったところも含めて意見を出していただきたい。

会長 資料16について、意見の多寡というところは評価しづらいけれど、この分類表をヒントに議論をしていただければと思う。

副会長 SDGsを出発点とするのは良いが、今回言葉を書き出すことと、ウェディングケーキモデルとがどう関係してくるのかを説明してほしい。特に、ウェディングケーキモデルにおける経済や社会や環境が市民の生活とどのように重なってくるのか。そういった重なり部分の部分が議論の中で見えてくると良いと思うので、資料20に加えてもう少しガイドラインを示していただけると助かる。

会長 ウェディングケーキモデルに捉われる必要はない。ただ、ウェディングケーキモデルを基にいただいた方が議論しやすければ活用していただきたい。

枠に当てはめるなどそういう話ではなく議論を進めていただくということでお願いする。

3グループに分かれて議論が行われた。

会長 それでは、それぞれのグループで検討した結果について発表をお願いする。

グループ③

委員 このグループは環境について詳しい委員が多いので環境の話が中心になった。福祉・教育などどのような分野から議論を始めても、結局は土台となる環境問題に結び付くのではないか。

このグループではよく「循環」というキーワードが出てきた。「循環」にはモノ・人・炭素・お金・多様性など様々な種類がある。ただ、市民レベルになると「循環」が自分事になっているかが課題になった。「循環」を身近に感じられるようにするにはどのようにすればいいかを検討した際に「地産地消」ではないかという話になった。

また、「多様性」では、マイノリティや LGBT が多様性の中に概念として入り込んでいて、みんなが自分事としてとらえることができると良いという意見が出た。

グループ①

副会長 思いやり・支え合いが大事である一方で、第六次総合計画は切迫感がある中で先行きの見えない社会にどう適応するのか、この2つの観点の両立が大事になるのではないかとと思う。そして、この2つの観点は結び付けることが出来るのではないかとと思う。利己主義だけでなく、利他主義だけでもない、「お互いさま」という関係が大事になってきている。この「お互いさま」も地域社会全体で成り立っているのが非常に重要である。また、「お互いさま」の見える化も重要である。そのためには、多摩ニュータウンの中で皆が活躍できる状態を確認し社会を守っていくことが必要になる。

これからの幸福は経済だけでなく「関係」の中でつくられるものと合わせて強調された。これは「お互いさま」の見える化と密接に関わっている。この「関係」というのは元気になるきっかけになる一方でストレスにもなる中で、いかに元気になれるかを選べるかが重要になってくる。

若者世代や勤労世代など「場」のパターンが決められた社会の中で、いかに能動的に場を選んで、「お互いさま」が確認できて元気になれるところをつくっていけるかが、脱ニュータウンに向けた課題と考える。

それから市民との対話だけではなく、企業との地域関係を考えていく必要があるのではないのかという意見が出た。

グループ②

委員 「共助」が一番のキーワードだった。多摩地域で活躍しているのは女性が多いのではないかと感じており、そういう人たちが私たちを助けてくれる。私たちはそれを受けて次世代へ受け継いでいくことで、世代間が繋がっていくことが多摩市の特徴だと思う。これこそが多摩市の土壌であり、その土壌に木を育て、実をつけるということを繰り返していくことが重要である。そういうことができるように行政は投資をしていくべきではないかという意見が出た。

世代の参画や高齢者の第二の人生といったものにつながっていく。そういったものをつくる仕組みに着眼をして、お互いに助け合う「共助」をキーワードに議論した。

【4 その他】

10月の市民ワークショップについて、事務局より参考資料 14 について説明。

次回の第5回審議会の日程について、事務局より説明。

会長 その他、委員から連絡事項等がないようなので、審議会を閉会する。

【閉会】

以上